

## 【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

# 施策評価シート

## 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関、企業等との連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人の学習や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	-
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館		
6	施策内の取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人の学習の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

## 2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
		評価理由(R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R2年度末現在の施策の主な課題		
2	生涯学習推進体制の整備については、新型コロナウイルス感染症の影響により、きらめき講座をはじめとする主催講座やイベントが中止・延期となったことに伴い、生涯学習の機会が減少したが、一部講座を動画配信にて実施したことや、会場収容率の制限や感染症対策を実施した対面でのイベントなど、アフターコロナを見据えた新たな手法にて生涯学習の提供を行いました。 生涯学習の普及啓発の推進については、生涯学習情報誌「Next Stage」の情報掲載数において、新型コロナウイルス感染症の影響により、各課の講座等が中止されたことに伴い、情報掲載数が減少したが、引き続き市ホームページやきらめきFacebook等で情報発信を行いました。 成人の学習の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の自主的・主体的な学習活動や社会参加を支援する講座の参加者数は減少したが、識字日本語教室事業においては、新しい生活様式に対応するため、オンラインや通信添削等の学習方法を取り入れました。 公民館活動の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響により、公民館講座等の主催事業を中止したことに伴い、受講者数及び講座回数が増減したが、地域の実情に合わせた講座等は、新しい生活様式を踏まえ、「手作りマスク」の講習会等を実施しました。 図書館サービスの充実については、新型コロナウイルス感染症の影響により一時期休館する中で、来館せずに自宅で利用できる電子書籍を導入、HPにリンク集を作成するなど、資料・情報の提供に努めました。また一部利用を制限した開館に際しても、子どもの読書活動推進に関わる人材育成講座のオンライン配信や、3密を避けたおはなし会・工作行事の実施など、創意工夫を図った図書館サービスを提供しました。1月には図書館システムの更新を行い、よりわかりやすい図書館情報の提供に努め、水尾・徳積図書館では予約資料受取コーナーを設置し、市民の利便性向上に努めました。 以上から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の臨時休館やイベント等中止の状況を考慮し、施策の方向性として概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	生涯学習施策の推進に向けて、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた、(仮称)茨木市生涯学習推進計画の策定及び推進を行う必要があります。	
			課題②	生涯学習の普及啓発推進のため、ホームページやSNS等を活用した情報発信を積極的に行うとともに、情報機器の取り扱いに不慣れた人への取り組みが必要です。	
			課題③	成人の学習の推進に向けて、識字・日本語教室事業において、感染症対策を講じた上で、受講希望者の増加に対応できる実施方法等を引き続き検討するとともに、指導者の増員及びスキルアップに取り組む必要があります。	
			課題④	公民館活動の推進に向けて、公民館講座等の実施方法について、新しい生活様式を踏まえ工夫する必要があります。	
			課題⑤	中条図書館の円滑な移転に向け、継続して準備を進めるとともに、新施設の特徴を活かした運営や連携を検討する必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、主催講座の中止や延期措置を講じたため、生涯学習の機会の提供が減少した。しかし、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、対面講座を基本としたきらめき講座等から、一部YouTubeを活用した動画配信の実施、各種イベント等では会場収容率や感染症対策を講じながら実施する等、新たなスタイルでの講座等を実施した。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	大学連携講座受講者数	人	↗	3,292	1,250	1,000(R3)	
	講座の動画配信数	本	↗	-	5	17(R3)	
	天文観覧室(プラネタリウム)利用者数	人	↗	9,873	2,475	14,500(R3)	

1	取組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各課の講座等が中止されたことに伴い、情報掲載件数が減少したが、引き続き生涯学習情報誌「Next Stage」を紙媒体とホームページにおいて情報発信を行いました。また、市ホームページやフェイスブック他、きらめきホームページにて、より多くの市民が生涯学習機会の情報を得ることができるよう努めました。今後、ICTを活用した情報提供が増えるに伴い、機器の取り扱いに不慣れな人への講習会の実施などの対応が課題である。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	Next Stage情報掲載数	件	↗	536	345	410(R3)	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取組	3-1-3	成人の学習の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するため、新型コロナウイルス感染症対策を講じて各種講座を企画しましたが、感染症拡大により中止した講座もあり、参加者数は減少しています。 識字・日本語教室事業については、各教室において、オンラインや通信添削等感染症対策を講じた学習方法を取り入れ、実施することができました。 以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できたとして「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	社会教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,180	993	1,200(R3)	

1	取組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月末まで公民館講座等の主催事業を中止したことにより、受講者数、講座等開講数は減少しました。現代的課題・地域課題に向けた取組として、読み聞かせや地域の歴史など地域の実情に合わせた講座等は、昨年に比べ大幅な減少となりましたが、コロナ禍においても、「手作りマスク」の講習会の実施など、新しい生活様式を踏まえ、取組を行ったことから、おおむね順調に進行できたとして、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	小学校区公民館講座受講者数	人	↗	2,450	1,674	2,300(R3)	
	小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	400	227	230(R3)	
	講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みによるもの	回	↗	72	12	63(R3)	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。乳幼児から高齢者まで、読書活動の推進が図られ、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	新型コロナウイルス感染症の影響により一時期休館する中で、来館せずに自宅で利用できる電子書籍を導入、HPにリンク集を作成するなど、資料・情報の提供に努めました。また一部利用を制限した開館に際しても、子どもの読書活動推進に関わる人材育成講座のオンライン配信や、3密を避けたおはなし会・工作行事の実施など、創意工夫を図った図書館サービスを提供しました。1月には図書館システムの更新を行い、よりわかりやすい図書館情報の提供に努め、水尾・穂積図書館では予約資料受取コーナーを設置し、市民の利便性向上に努めました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	資料貸出点数	点	↗	3,526,464	3,063,456	3,500,000 (R3)	
	蔵書冊数	冊	→	1,245,851	1,258,319	1,250,000 (R3)	


#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学 文学部 特任教授 今西 幸蔵
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のなかでもICTを活用した事業実施などの工夫があり、さらに可能な限りで対面による講習会やプログラムが実施されており、後期基本計画による施策の基本方向をふまえた取組の現状は、十分に総合評価「B」に値するものと思われる。</li> <li>・3-1-1の取組では、コロナ禍のもとで参考指標の目標値を上回る実績があること、コロナ後の新たなスタイルの講座が案出されようとしていること、さらにデジタルディバイド対策としての講習会の実施など、市民を支援する取組の実施を評価する。</li> <li>・計画にあげられている他機関との具体的・実質的な連携の推進という課題については、市の評価からはよく読み取れなかった。まずは生涯学習センターを核として全庁的に有機的な連携を進めることや、公民館活動とのさらなる連携が必要であると思われる。</li> <li>・図書館においては、電子図書の購入や子どもを対象とした講座のオンライン配信等により、状況に見合った事業が適切に取り組まれていること、資料貸出点数が計画数に達していないとはいえ、市民の学びの意欲が衰えていないと思われる。関係者の努力があるであろう。</li> </ul>

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	本市のスポーツ推進計画に基づき、スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	スポーツ推進課	-
	施策関係課				
6	施策内の取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進		
		3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成		

### 2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。                  B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。                  C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。                  D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
	評価理由(R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R2年度末現在の施策の主な課題		
2	<p>東京2020オリンピック・パラリンピックにむけて、トップアスリート支援事業を実施し、本市ゆかりのアスリートを支援するとともに、市民にスポーツへの関心を持ってもらえるように、アスリートの紹介などを行いました。また、スポーツ機運の向上のため、市内中学生がオリンピックのホストタウン相手国であるオーストラリアの中学生とオンラインを活用した交流を実施しました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となったスポーツイベント・大会などもありましたが、コロナ禍においても、安全に事業が実施できるように感染症対策のガイドラインを関係団体と連携して作成しました。また、市民体育館と西河原屋内運動場に換気設備を設置するなど、市民がスポーツに取り組みやすい環境の整備を行いました。</p> <p>また、子どもや高齢者が施設を利用しやすいように、東雲運動広場のトイレの洋式化を行うとともに、障害者のスポーツ参加のきっかけとして、追手門学院大学、スポーツ推進委員協議会、生涯スポーツディレクター協議会、老人クラブ連合会、ニュースポーツ普及会、茨木支援学校と連携しポッチャ交流大会を実施しました。</p> <p>その他、スポーツ指導者の資質の向上に向けて、スポーツ指導者向けの研修会の実施や、スポーツ推進委員の初級障がい者スポーツ指導員の資格取得を支援しました。</p> <p>コロナ禍において、様々な制限がある中、施策の方向性に沿った取り組みについて、関係団体と連携し、新たな生活様式に対応して進めることができ、総合評価は「A」とします。</p>		課題①	茨木市スポーツ推進計画策定後5年間で経過したため、新型コロナウイルス感染症の影響をはじめ、スポーツを取り巻く環境は変化しており、計画を見直す必要があります。	
			課題②	子どもや働き世代・子育て世代の好奇心をひきつけるスポーツ体験の取組みが必要です。	
			課題③	スポーツへの参加機会の充実を図るため、取り組みやすい環境の整備に努める必要があります。	
			課題④	スポーツ関係団体の連携を図る必要があります。	
			課題⑤	スポーツ指導者の資質の向上に取り組む必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西 勝二
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、年代や障害の有無に関わらず、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。「する」「観る」「支える」といった様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	市や総合型地域スポーツクラブが実施するスポーツ教室・サークル活動のほか、障害者スポーツに対する取り組みなど、スポーツ推進計画に基づき市民の健康増進・生きがいづくりにつながる生涯スポーツを推進しました。ニュースポーツ教室・体験会などでは、これまでスポーツをしていない人に対してスポーツをするきっかけとなりました。また、年度当初は新型コロナウイルス感染症により中止となったスポーツ大会等も多かったですが、年度の後半は感染症対策を講じた上で実施いたしました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	

1	取組	3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西 勝二
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	高齢化の進展に伴い、健康志向が高まっており、スポーツを身近なものとして、多くの市民が気軽に参加できる環境が求められています。こうした中で、スポーツ体験を総合型地域スポーツクラブとスポーツ推進委員協議会が共催で行うなど、スポーツ関係団体による連携を図ることができました。また、新型コロナウイルスの影響により、指導者研修会が昨年に引き続き一部中止になり、参加者は減ったものの、スポーツ推進委員に初級障がい者スポーツ指導員の資格取得を支援し、スポーツ指導者の資質の向上を図ることができました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	追手門学院大学 社会学部 教授 辰本 頼弘
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症下において、スポーツ活動の遅滞が否めない中、施策の方向性についての取り組みは成果が見られることから、「施策の現状と課題」についての総合評価「A」は妥当であると考えます。</li><li>・取組3-2-1の「多様な生涯スポーツ活動の推進」において、コロナ禍の影響でやむなく中止や制限をされてのスポーツ活動も多く、実績値(人数)は昨年度を下回っているが、感染症対策を講じる中で、生涯スポーツの啓発・普及を積極的に発信し目標値に近づけていただきたい。</li><li>・取組3-2-2の「スポーツ関係団体や指導者の育成」において、総合型地域スポーツクラブの会員数およびスポーツ指導者講習・研修会の参加者数とも頭打ちになっており、スポーツを支える人材の不足は「いつでも・どこでも気軽にスポーツ活動を」という市民の活動欲求を下げかねないことから早急な対策を検討することが重要。</li></ul>



## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。			
5	評価者等	部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	-
		施策関係課	市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館		
6	施策内の取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

### 2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	C	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。                  B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。                  C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。                  D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>	
評価理由(R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R2年度末現在の施策の主な課題		
2	<p>令和2年度には、市民との協働による文化のまちづくりとして、創意工夫した取組を募集する提案公募型公益活動支援事業補助には、9件の応募がありました。</p> <p>文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりとして、新型コロナウイルスの影響で、多くの事業が中止となったため、文化振興イベント参加者数、市立ギャラリー入場者数が大きく減少しましたが、コロナ禍でも開催できる事業として新たに映像作品のコンクール「茨木映像芸術祭」を実施し、市民が文化芸術に触れる機会を提供しました。市民会館跡地エリアについては、新施設及び芝生広場の設計業務を進めたほか、各機能についての運営方針や管理手法等についてまとめた管理運営計画の作成を進めました。</p> <p>未来へ向けた文化芸術の担い手の育成として、コロナ禍の対応として、新たに工作動画の配信やあそびのレシピの配布を行い、子どもたちが在宅で創作活動に取り組む支援を行いました。</p> <p>歴史遺産の保存・継承については、新型コロナウイルスの影響で、文化財資料館テーマ展、史跡郡山宿本陣の公開が中止となるなど、文化財資料館入館者数は大きく落ち込みました。一方で、キリシタン遺物史料館企画展「ザビエル・ストーリー」は、メディアに取り上げられるなど一定の成果を上げました。また、歴史的建造物の調査成果をまとめた報告書(寺院編)を刊行いたしました。埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しております。</p> <p>郷土への愛着心とブランド形成として、新型コロナウイルスの影響による臨時休館や展示・講座の中止に伴い、川端康成文学館の入館者数は大きく減少しました。「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRに向けて、「川端康成青春文学賞」の第2回作品募集を開始しました。</p> <p>以上から、新型コロナウイルスの影響によって、施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じていると判断し、総合評価は「C」とします。</p>		課題①	新施設を見据えて、文化振興ビジョンの改定や文化振興財団のあり方について検討を進める必要があります。
			課題②	市民総合センターの老朽化が進んでおり、計画的に予防保全を行う必要があります。
			課題③	若い世代が文化芸術に触れることができる環境のさらなる充実が必要です。
			課題④	文化財所有者の方に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけていくとともに、本市にのこる文化財の魅力をはきだす調査・研究を進め、その成果をまとめていく必要があります。
			課題⑤	川端康成ゆかりのまちであることを市内外に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる多様な主体の協働や、文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		C	<p>新型コロナウイルスの影響で、多くの事業を中止することになりましたが、美術協会や文化振興財団との協働により、コロナ禍でも開催できる事業として新たに映像作品のコンクール「茨木映像芸術祭」を実施しました。</p> <p>また、新型コロナウイルスによる市民の不安やストレス緩和の一助とするため、創意工夫した取組を募集した提案公募型公益活動支援事業補助には、9件の応募がありました。</p> <p>今後は、withコロナ時代の文化事業のあり方について研究を行い、関係団体と連携を図ります。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	市が他の主体と協働・連携して実施する事業数	件	↗	16	5	20(R6)	
	提案公募型公益活動支援事業補助申請件数	件	↗	8	9	8(R6)	

1	取組	3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課	中央図書館、市民会館跡地活用推進課					
4	目標 (後期基本計画より)	様々な場所で文化と身近にふれることのできる環境を整備し、障害の有無にかかわらず、市民が文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会が充実しています。 また、高齢者や子育て世代、若者、障害者、外国人など、それぞれの文化芸術ニーズに応える事業を行うことにより、市民誰もが、気軽に文化芸術とふれる・感じる・つながる環境が整っています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		C	<p>市民会館跡地エリアについては、新施設及び芝生広場の設計業務を進めたほか、各機能についての運営方針や管理手法等についてまとめた管理運営計画の作成を進めました。</p> <p>音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、鑑賞や発表の機会を確保するとともに、適宜、文化施設の修繕を行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、文化振興イベントの入場者数は553人と昨年度を下回り、市立ギャラリーの入場者数も8,748人に減少していますが、コロナ禍でも実施できる新たな取組として、映像作品のコンクール「茨木映像芸術祭」を開催しました。</p> <p>今後は、withコロナ時代の文化事業のあり方について研究を行います。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	市立ギャラリー入場者数	人	↗	23,517	8,748	16,000(R6)	
	文化振興イベント参加者数	人	↗	16,123	553	24,000(R6)	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			

1	取組	3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		C	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、子どもと保護者を対象とした講座やワークショップが実施できませんでしたが、コロナ禍の対応として、新たに工作動画の配信やあそびのレシピの配布を行い、子どもたちが在宅で創作活動に取り組む支援を行いました。 川端康成文学館俳句コンクールでは、1,482件の学生応募がありました。 今後は、講座やワークショップの定員を見直すなど、事業再開の手法を検討します。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
子ども対象の芸術文化講座 参加者数	人	↗	179	0	150(R6)		
川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	1,559	1,482	1,600(R6)		

1	取組	3-3-4	歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	木下 典子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鑄型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		C	コロナ禍により、文化財資料館テーマ展及び史跡郡山宿本陣の公開は中止となり、入館者数が大きく落ち込みました。新型コロナウイルス感染症対策を取りつつキリシタン遺物史料館企画展「ザビエル・ストーリー」を開催し、メディアに取り上げられるなど一定の成果を上げることができました。歴史的建造物については、これまでに実施した調査成果をまとめた報告書(寺院編)を刊行しました。埋蔵文化財発掘調査により、出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しています。なお、新型コロナウイルス感染症対策を取りつつ、深見遺跡において現地説明会を開催しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	2,863	0	2,500人(R3)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にすることが気持ちや茨木市に対する愛着が生まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持ってブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		C	新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館や展示・講座の中止の影響により、川端康成文学館の入館者数は昨年の8,810人から4,316人に減少しました。「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRに向けて、「川端康成青春文学賞」の第2回作品募集を開始しました。 今後は、講座の定員を見直すほかwithコロナ時代の文学館運営について研究します。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	川端康成文学館入場者数	人	↗	8,810	4,316	9,000(R6)	
	川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	1,024	529	1,000(R6)	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学 文学部 特任教授 今西 幸蔵
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における施策の在り方として、計画の方向性を意識しているものの現状で遅滞があったことは事実であるが、仕方がないことであり、「C」評価はやむを得ない。市民の理解や納得が得られるものと思われる。しかし、厳しい現状を考慮すると総じて評価が少し厳しいと感じる。</li> <li>・施策の方向性に新しい担い手の発掘と育成があげられているが、子どもの在宅での創作活動支援などで成果が上がったかどうか注視したい。</li> <li>・提案公募型公益活動支援事業補助以外に官民協働につながる取組が見られなかった点が残念である。</li> <li>・取組3-3-3において、川端康成文学館俳句コンクールに1,500名近い学生応募があったことは良かった。この応募した人たちや、3-3-5の川端康成青春文学賞募集などの関連事業に参加した人々を対象に、茨木のまちの文化と芸術を若い世代にアピールできる可能性があり、広報等についてさらなる検討をお願いしたい。</li> </ul>

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	吉田 誠
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	-
		施策関係課	まち魅力発信課、農林課、北部整備推進課		
6	施策内の取組	3-4-1	観光資源の発掘とネットワーク化の推進		
		3-4-2	観光情報の発信を強化		
		3-4-3	官民協働で観光事業を推進		

### 2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
		評価理由(R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R2年度末現在の施策の主な課題		
2	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、一定人数が集まる催しや飲食を伴うイベント等は、縮小・中止になったものが多くありました。一方で、遠出や「3密」を回避する状況を踏まえ、身近なまちの魅力の情報発信に積極的に取り組みました。 観光資源の発掘とネットワーク化の推進につきましては、ウォーキングや観光農園等のイベントを実施し、市内の魅力資源の創出・発信に努めました。  観光情報の発信につきましては、コロナ禍における応援プロジェクト「#ユール茨木」を立ち上げ、身近な遊びスポット等を紹介しました。 官民協働での観光事業の推進につきましては、やむなく中止せざるを得ないイベントが多いなか、イルミネーション事業については、実施期の感染状況やイベントの形態から、人が集まる状況を避け、コロナ禍で憩いを感じ、楽しんでもらえるよう工夫して実施することができました。  以上から、全体としては施策の方向性に沿って概ね順調に進行していますが、市内外の連携をさらに充実させ、ターゲット層に応じた魅力資源の創出・発信を促進し、市内での回遊・消費につなげる必要があることから、総合評価は「B」とします。		課題①	新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な活動を制限することとなったため、今後は新しい生活様式を踏まえた取組を検討する必要があります。	
			課題②	関係団体や民間事業者等とも連携し、ターゲットに応じたテーマやコンテンツの設定、情報発信の強化等に取組むことが必要です。	
			課題③	イベント等を契機として、市内の回遊・滞在や周辺店舗での消費を促し、地域経済への波及につなげる手法の検討が必要です。	
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する			

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	3-4-1 観光資源の発掘とネットワーク化の推進					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 河原 勝利	
3	関係課	北部整備推進課、まち魅力発信課					
4	目標 (後期基本計画より)	市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	新型コロナウイルス感染症の影響で縮小した事業もありますが、阪急電鉄や沿線自治体と連携した「阪急沿線観光あるき」、ウォーキングをはじめとした観光協会主催の各事業、広報誌の特集での北部地域の農産物や関連イベントの掲載等において、市の魅力資源を広く紹介しました。 北部地域については、観光農園が多くの市民で賑わっていたほか、まちなかで実施する生産者によるマルシェ、地元団体等と連携したPRイベント、学生ボランティアを中心とした農業体験など、魅力の創出と発信に努めました。 安威川ダム周辺整備については、令和2年8月に公募によって選定した民間事業候補者と北部地域の魅力向上に資するためのエリアマネジメント活動を含めた基本計画の策定に必要な協議を行っています。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	阪急沿線観光あるき ウォーキングアプリにおける茨木市作成コースの踏破回数	回	↗	—	644	680	
	「いばらき観光ウォーク」参加者数	人	↗	451	51	—	
	いばらき青空マルシェの開催数	回	↗	0	4	5	

1	取組	3-4-2 観光情報の発信を強化					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 河原 勝利	
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (後期基本計画より)	積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	広報誌や市ホームページ等のほか、関係団体の広報媒体の活用等により、市内の魅力スポットの情報発信を行いました。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、中止・縮小された事業もありましたが、コロナ禍における応援プロジェクト「#エール茨木」を立ち上げ、その取組の1つとして、市ホームページ特設サイトにイベントや市内の「遊びスポット」などの紹介を掲載しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する

1	取組	3-4-3	官民協働で観光事業を推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	河原 勝利
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (後期基本計画より)	市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>茨木フェスティバル、茨木音楽祭、茨木麦音フェスト等の大規模イベントは、準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でやむなく中止となりました。イルミフェスタについては、人が集まる状況を避け、コロナ禍で憩いを感じ、楽しんでもらえるよう工夫して実施しました。また、関係団体・事業者等と連携して、「#エール茨木」における身近な遊びスポットの紹介や映画「葬式の名人」ロケ地パネルの設置など、まちの賑わい創出に取り組むほか、市民レポーターによるフェイスブック投稿により、市内各所の魅力の発信ができました。</p>				
			<p>a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ</p>				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	主要イベントの集客数	人	→	241,526	150	-	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学 文学部 特任教授 今西 幸蔵
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のなかではあったが、屋外での取組には一定以上の成果をみることができた。また身近なまちの魅力の情報発信が積極的に行われたなどから、観光資源の活用という目標は概ね順調に進展していると思われる。「B」評価は妥当であると考え。</li> <li>・官民協働について、観光農園との連携などは評価すべきであると同時にモデルであることから積極的に広報してほしい。官民協働を実現するには、まず共有する課題に関わる適切なテーマの設定と、関係者のパートナーシップに基づく連携・協力の仕組みづくりが必要となる。観光協会主催の事業などとの連携・協力を活用して、計画を着実に実行してほしい。</li> <li>・3-4-2については、関連機関との連携・協力をとおして、情報提供のあり方の検討が必要である。マスメディア以外にも多くの媒体があり、SNSなどを活用することが重要である。</li> </ul>

## 施策評価シート

### 1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化を推進する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、様々な分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	-
	施策関係課	人権・男女共生課			
6	施策内の取組	3-5-1	都市間交流の促進		
		3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備		

### 2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。                  B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。                  C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。                  D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
		評価理由(R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R2年度末現在の施策の主な課題		
2	<p>都市間交流の促進については、新型コロナウイルスの影響により、国内外の姉妹・友好都市との子どもの絵画・書の交換事業、市民訪問団の派遣、交流イベントである「国際交流の集い」は中止となり、宿泊補助制度の利用者数も前年度の386人と比べて今年度は65人と大幅に減少し、実用日本語学習会は一時休止となりました。しかし、直接的な交流は難しいものの、ミネアポリス市とのオンラインミーティングや実用日本語学習会によるオンライン講義、ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニュースレターへの記事の寄稿を実施するなど、ICTを活用した新たな方法での交流がなされています。</p> <p>地域国際化を推進するための環境整備については、通訳(翻訳)ボランティア派遣数がコロナ禍においても昨年度と同水準となっており、安定した利用状況となっています。</p> <p>以上から、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、中止がやむをえない事業もあるなか、全体としては施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断します。引き続き新しい生活様式をふまえた都市間交流の方法や多文化共生の方法を検討する必要があるため、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	都市間の交流について、多様な交流機会を提供し、多くの市民に関心を持ってもらう必要があります。	
			課題②	在住外国人に対する様々な支援に関して、庁内の関係各課と連携して行う必要があります。	
			課題③	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、新しい生活様式をふまえた都市間交流の方法、多文化共生の方法を検討する必要があります。	
			課題④		
			課題⑤		



1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化を推進する		

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	3-5-1	都市間交流の促進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、様々な「つながり」が生まれています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹・友好都市と子どもの絵画・書の交換事業や市民訪問団の派遣等の交流事業を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により、中止となりました。宿泊施設利用補助制度の利用者数についても、新型コロナウイルスの影響から利用者数は大幅に減少しており、直接的な交流は難しい状況となりました。しかし、オンラインを活用したミネアポリス市とのミーティングやミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニュースレターへ継続的な記事の寄稿を行うなど、新たな方法によって交流がなされています。来年度以降についても、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、新たな手法を取り入れ、交流を継続します。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市)	人	↗	386	65	190(R3)	
	市民訪問団等参加者数(姉妹・友好都市市民訪問団・ミネアポリス体験ツアー)	人	↗	42	0	10(R3)	

1	取組	3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課	人権・男女共生課					
4	目標 (後期基本計画より)	市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>茨木市国際親善都市協会と連携し、実施している通訳(翻訳)ボランティア派遣数は、昨年度と比較し、同水準となっており、安定した利用状況となっています。その他の取り組みとして、在住外国人にマンツーマンで日本語教育を行う実用日本語学習会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時休止しましたが、オンラインを活用し実施を継続しています。交流イベントである「国際交流の集い」は不特定多数の参加者が見込まれ、新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえて中止しました。来年度以降についても、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、新たな手法を取り入れ、多文化共生事業を継続します。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
	国際交流の集い参加者数	人	↗	383	0	400(R3)	
	通訳(翻訳)ボランティア派遣数	件	↗	34	32	40(R3)	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学 文学部 特任教授 今西 幸蔵
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹都市を中心とした都市間交流については、ICT等を使うなどの新たな方法での交流がなされていること、通訳ボランティアの安定した活動があることなどから、計画が概ね順調に進行していると考えられ、評価「B」になっていることに納得した。</li> <li>・問題意識として在住外国人への支援が取り上げられていることを評価したい。本市の計画だけでなくSDGsの内容とも一致するためである。実施にあたっては、今後とも、関連する各課、生涯学習センターやいのち・愛・ゆめセンターなどの有機的な連携・協力関係の構築が必要であり、具体的な方策を策定して進めてほしい。</li> <li>・3-5-2の取組について、通訳等のボランティア派遣数が前年度と同水準で安定しており、また、実用日本語学習会をオンライン活用によって継続するなど、困難な状況のなかでの多文化共生事業は計画の趣旨に沿って実施されている。在住外国人にとっても貴重なサービスの提供になっていると思われる。</li> </ul>